

科目ナンバリング											
授業科目名 ＜英訳＞	博物館実習（自然史） Practical Training at Museum (Natural History)					担当者所属 職名・氏名	理学研究科	教授	吉村	一良	
							理学研究科	助教	松岡	廣繁	
							地球環境学舎	教授	田中	千尋	
							総合博物館	教授	本川	雅治	
							野生動物研究センター	教授	幸島	司郎	
							野生動物研究センター	特任教授	田中	正之	
							理学研究科	教授	曾田	貞滋	
							理学研究科	教授	中務	真人	
							理学研究科	准教授	布施	静香	
							フィールド科学教育研究センター	助教	寄元	道德	
群	キャリア形成科目群			分野(分類)	学芸員課程			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	時間数	60時間	授業形態	実習（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・ 前期集中		曜時限	集中		配当学年	3回生以上	対象学生	理系向		
【授業の概要・目的】											
博物館に収集・保管されている自然史標本資料の機能を理解するために、標本整理、情報収集、研究への利用法を学ぶとともに、博物館、動物園、植物園、水族館で、見学実習を行う。											
【到達目標】											
博物館、動物園、植物園、水族館でどのような社会教育・研究活動が行われているかを理解し、収集・管理されている自然史標本資料の取り扱い、利用法の実際を体験学習する。											
【授業計画と内容】											
金曜日の3・4・5限の実習を前期に10回行う。博物館、水族館、植物園、動物園等を見学してその運営形態を学ぶ。さらに、様々な自然史標本の作成、整理、情報収集の方法を身につける。第2回～10回の実習の順番は変更されうるので、必ず第1回に出席すること。担当教員は毎回変わるが、実習の代表教員（吉村）が全体をコーディネートする。											
第1回 事前指導および総合博物館の見学実習：吉村（事前指導）、本川（総合博物館見学） 日時・場所：4月14日（金）13:00に総合博物館1Fロビー集合（第2回以降の担当教員・予定・集合場所など詳しいことは第1回目の際に説明・配布する。）											
第2回 京都市動物園において見学実習を行う。											
第3回 京都大学上賀茂試験地において見学実習を行う。											
第4回 京都水族館において見学実習を行う。											
第5回 理学部附属植物園において見学実習を行う。											
第6回 植物標本の作成、整理、研究の方法等を学ぶ。											
第7回 魚類・昆虫標本の作成、整理、研究の方法等を学ぶ。											
第8回 菌類標本の作成、整理、研究の方法等を学ぶ。											
-----博物館実習（自然史）(2)へ続く-----											

## 博物館実習（自然史）(2)

第9回 人類学標本の整理、研究の方法等を学ぶ。

第10回 化石標本の作成、整理、研究の方法等を学ぶ。事後指導を行う。

### 【履修要件】

博物館学 ・ ・ の内、2科目の単位を取得習得済みで、3回生以上の学生を対象とする。  
また、本授業の単位は増加単位にはなるが、卒業に必要な単位にはならない。

### 【成績評価の方法・観点】

実習への取り組みの態度によって評価する。実習であるため、参加しなければ、その回についての評点はない。毎回、担当教員より出される課題について採点を行い、コーディネータが総合的評価を行う。

### 【教科書】

特にないが、必要に応じて関連論文等に関する情報を提供する。

### 【参考書等】

（参考書）

特にないが、関連論文等に関する情報を提供する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

実習内容が回ごとに大きく異なるため、復習すべき事項は、各実習時間中に指示する。不明な点については随時コーディネータに照会すること。

### 【その他（オフィスアワー等）】

「学芸員資格取得のための科目」である。  
実習の性格上、学生数を10名程度に制限する。履修希望者が多い場合は、最初の授業においてレポートを課し、その内容に基づいて履修可否を判定する。  
見学実習の際にかかる交通費、および入館料が実費である場合、それらは受講生負担となる。  
万一の事故に備え、学研災（学生教育研究災害傷害保険）及び学研賠（学研災付帯賠償責任保険）または同様の保険（生協の共済等）に必ず加入すること。